

平成27年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

平成28年6月

I G L 医療福祉専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準5 学生支援.....	36
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	37
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	39
基準2 学校運営.....	4	5-18 学生相談.....	42
2-2 運営方針.....	5	5-19 学生生活.....	45
2-3 事業計画.....	6	5-20 保護者との連携.....	47
2-4 運営組織.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	48
2-5 人事・給与制度.....	8	基準6 教育環境.....	51
2-6 意思決定システム.....	9	6-22 施設・設備等.....	52
2-7 情報システム.....	9	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	53
基準3 教育活動.....	10	6-24 防災・安全管理.....	54
3-8 目標の設定.....	11	基準7 学生の募集と受入れ.....	55
3-9 教育方法・評価等.....	14	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	56
3-10 成績評価・単位認定等.....	19	7-26 入学選考.....	57
3-11 資格・免許の取得の指導體制.....	22	7-27 学納金.....	58
3-12 教員・教員組織.....	25	基準8 財務.....	59
基準4 学修成果.....	29	8-28 財務基盤.....	60
4-13 就職率.....	30	8-29 予算・収支計画.....	61
4-14 資格・免許の取得率.....	32	8-30 監査.....	62
4-15 卒業生の社会的評価.....	34	8-31 財務情報の公開.....	63

基準 9 法令等の遵守	64
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	65
9-33 個人情報保護.....	66
9-34 学校評価.....	67
9-35 教育情報の公開.....	68
基準 10 社会貢献・地域貢献	69
10-36 社会貢献・地域貢献.....	70
10-37 ボランティア活動.....	71

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成 27 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>教育理念：「隣人愛」～自分を愛するよう にあなたの隣人を愛しなさい～</p> <p>「隣人愛」とは、苦しみを持つ人に対して、その人と自分との過去の関わりや、国籍、思想の違いを超えて、その人の必要に応える行為を行おうとすることです。相手を受け入れ、自分を愛するよう に、他者を愛することで、自らが苦しみを 持つ人にとっての「隣人」になろうと する愛を持ち、心からの奉仕ができる人 間を育てたいという願いを込めて、この 言葉を教育理念として掲げています。</p> <p>校訓：「自信と謙遜」～オンリーワン。世 界中で自分という存在はただ一人であっ て、かけがえのない命なのです～</p> <p>真に自分に自信がある人は、他人に対 し寛容となり、相手の立場を受容し譲る こともでき、謙遜の徳を持って世の光と して輝き、奉仕に徹することが可能とな ります。</p> <p>学生の皆さんは、「自分という存在はた だ一人」であって、それほどにかけがえ のない生命をこの世に授けられていると の認識を持って、学びを通じて成長して 貰いたいとの期待が込められている校訓 です。</p> <p>目標：教育理念及び校訓をもとに、職業 教育・言語教育を通して、実践的な知識・ 技能を有する人材を育成し、社会に信頼 される学校を目指す。</p>	<p>1 平成 26 年（2014 年）4 月姉妹 校統合により、教職員が融合し、協 力して業務遂行が可能である状況 をつくる。</p> <p>2 福祉と医療に関する専門知識を 習得し、健康で明るい社会を創造す る人材の育成と、日本の大学等に入 学を希望する外国人留学生に対し て、日本語教育及び文化等の教育を 行い、高等教育を受けるに必要な日 本語力を養う。</p> <p>ついては、国家資格取得 100%を 目指すとともに、留学生には中国人 N2 合格、ベトナム人 N3 全員合格 を目指す。</p>	<p>1 全教職員が最大限の努力をして いる。理念的に協力体制を築こうとす る努力は旺盛だが、「学生が主役」の 旗印が学生の学力向上に直結してい ない。</p> <p>2 学校が学ぶ環境として最適条件 を有しているという自覚を、教職員・ 学生ともに持ってきた。</p> <p>国家資格合格率は鍼灸学科 92.3%、 口腔保健学科 100%であり、柔整学科 は 59.1%であった。介護福祉学科は 2 年間履修・卒業と共に介護福祉士国家 資格を取得できる。卒業時共通試験 は、受験対策を授業で行ったので、 390 校中第 44 番目の成績を得た。日 本語学科は、N2、N3 合格者を増加さ せた。国際教養コミュニケーション学 科は、N2、N1 合格を目指す学科であ る。</p>	<p>1 学生に対する教育成果を最大限大 きくすると言う理解は揺るぎないも のとなった。学科、学生部、各種委員 会の活動を有機的に結びつける必要 がある。</p> <p>統合による摩擦を和らげ、融合の実 をあげなければならない。</p> <p>2 職業教育、日本語教育は「欠席な く学習するのが当たり前」であり、遅 刻・早退のない環境を維持する。その 為に、教職員が「時間を大切にする」 意識を強く持ち、行動の変容を図る。</p> <p>学生に対して勉学の目的を常に自 覚させ、同時に学生の生活実態を把握 することによって、励ましの働きかけ をする。</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 5 年（1993 年）IGL 健康福祉専門学校を創設して、介護福祉士の養成を始めた。</p> <p>平成 13 年（2001 年）IGL 医療専門学校を並び設け、はり師・きゅう師、柔道整復師の養成を始めた。平成 19 年（2007 年）、IGL 医療専門学校に歯科衛生士養成を行う口腔保健学科を設けた。</p> <p>平成 21 年（2009 年）10 月、IGL 健康福祉専門学校に日本語学科を併設した。</p> <p>近年、定員割れが続き、将来的に少子化傾向が予想されることを背景に、平成 26 年（2014 年）姉妹校が統合した。</p> <p>介護福祉学科、日本語学科の IGL 健康福祉専門学校と、医療系の鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科の IGL 医療専門学校は、別々の道を歩んできたので、それぞれ固有の性格を有している。固有の性格を生かし、その良さを発揮させながら統合するためには、困難な状況が生ずる事が予想された。校長のリーダーシップの下、教職員が「隣人愛」の精神を体現して、活力ある新たな学校を創造する課題に直面している。</p>	<p>IGL グループは、昭和 44 年（1969 年）に幼稚園を開園した。そして、老人福祉に事業を拡大して、人材育成事業として専門学校が設立された。</p> <p>IGL 健康福祉専門学校に保育社会福祉学科が併設された時期もあり、時代の移り変わりの中で、姉妹校が定員割れの傾向を続けた。</p> <p>両校は、統合を契機として「学生が主役」を旗印として新たな学校として生まれ変わろうとしている。3 年間の中期計画、毎年度の事業計画・事業報告、個々の教職員は組織への貢献を誓う自己申告書を作成し、業務点検する。ひとえに「学生が主役」を旗印として、学生の学力向上に力を注ぐ。その成果として、自己評価報告書を作成し、学校関係者評価をしていただく。将来、第三者評価に耐えうる学校としての基盤整備を行っている。</p> <p>教職員は、それぞれの職責に立ち向かう姿勢に多少の違いはあるが、学生に正面から教育指導に当たっている。学生の国家資格取得、就職・進学等の状況も好転している。学生の学習成果が教職員の「隣人愛」実践の証であるので、統合二年目で、産みの苦しみはあるが克服しようと努力している。</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	野村 敏之
--------	----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念・目的・育成人材像について明確に定めて周知、徹底することは重要であると考えている。	学則・校訓等により学校の目標を明確にしている。 教職員に事業計画を配布し、認識を共有している。	特になし。	学則 学校 HP 学生便覧 学校案内パンフレット 事業計画
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	職業教育・言語教育を通して実践的な知識・技能を有する人材育成である。学生指導方針を明確にし、各学科で指導を行うことは重要であると考えている。	業界等の協力による校外実習を実施している。 教育課程編成委員会で業界等のニーズを把握してシラバスに組み込んでいる。	特になし。	学生便覧 シラバス
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	学生実態を把握して、医療・福祉等の実践力を養う教育課程を組むことは重要であると考えている。	各学科で独自の教育内容を教材化し、シラバスに組み込む。特色ある教育活動を学生募集に生かしている。	業界等のニーズに即応した教育目標をたてる。	シラバス
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	社会のニーズ等を踏まえて将来構想を計画することは重要であると考えている。	平成 26 年度前半に、各学科が中期計画（3 年間）を立てた。如何に中期計画が日常教育活動に生かされているか、検証している。	各学科の中期計画が日常教育活動に活かされているかを検証するために、来年度事業計画策定作業を進める。平成 29 年度からの中期計画（3 年間）の作成を視野に入れる。	事業計画 中期計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念「隣人愛」・校訓「自信と謙遜」を掲げてきた。普遍的に生きる知恵を学校教育を通じて身に付けてくれる取組み等をしている。	学校法人 IGL 学園理事長永見憲吾著『幸せレッスン』を教材にして、人類の幸せづくりについて考える。

最終更新日付

2016 年 6 月 1 日

記載責任者

野村 敏之

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人 IGL 学園の経営方針に基づき、平成 26 年 4 月姉妹校が統合した。定員割れを続けてきた IGL 学園は統合を契機として、再活性化を図る。学則に定めた学校の目的を達成するために、平成 26 年 8 月中期計画を作成した。中期計画（3 年）2 年目が進行中であり、平成 27 年度事業計画を作成した。</p> <p>学則に定めた学校目的の実現のため、校長は理事会の承認を得て、学校の毎年度の「事業計画」を策定している。</p> <p>統合により組織が拡大したので、教務局・事務局とした。教務局には教務部と学生部があり、事務局には事務部、広報部、留学生部がある。各学科、事務局各部署は、それぞれ事業計画の中に教育計画、組織管理の計画を持ち、進捗を管理している。</p> <p>校務運営組織図と各種委員会規程による。統合によって構成員が増大したので、理事長・校長・局長の組織的運用が必要である。</p> <p>教職員の労働意欲喚起の為にも、信賞必罰の人事考課のためにも、公平公正さを担保した人事・給与制度が必要である。</p> <p>校務運営組織と委員会により、教育目標実現のために、着実な歩みをしている。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	野村 敏之
--------	----------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	学則に定めた目的、及びそれぞれを達成するための教育目標に基づき、事業計画を行うことを方針としている。	学科長は教育目標に基づき、教育計画等を作成している。事業計画は、理事長の承認を得て全教職員に周知している。	特になし。	学則 事業計画 中期計画

※点検進捗 4: 優れている 3: 適切である 2: やや不適切 1: 改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年、校長を中心に事業計画を定めることを最も重要視している。学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに年間通じ力を入れている。</p> <p>全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学科の教育成果に繋がっている。常に業界等のニーズに対応した事業計画をこれからも作成するように努める。</p>	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	理念等、教育目標を達成するために事業計画を適切に行うことは重要であると考えている。	中期計画、事業計画を校務運営会議で作成し理事長の承認を得ている。	新規事業計画の承認に時間がかかり実行が遅れる傾向にあるので、速やかな決裁を行うこと。	事業計画 中期計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会において前年度の事業報告及び本年度の事業計画の承認を得て事業が適正に進められている。諸事情による変更もあるが、ほぼ計画通りに実行できている。	統合という新たな条件の下で、新たな学校づくりに全員が関わっている。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人の組織運営を適切に行っているか	寄付行為に基づき適正に行うことを方針としている。	理事会、評議員会は寄付行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録も作成されている。	特になし。	校務運営組織図 理事・評議員・監事名簿 法人寄付行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	学校運営を円滑に遂行するため組織を整備することは重要であると考えている。	学校運営に必要な事務・教務組織は体系化し運営組織を整備している。	特になし。	委員会等規程集(目次)

※点検進捗 4: 優れている 3: 適切である 2: やや不適切 1: 改善が必要

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理事長の下、ディレクター、学校法人事務長、多機能分野に活躍している秘書室長が学校を支えており、本部組織、校務運営組織がその機能を発揮している。	「人は城、人は石垣」のとおり、重要人物が柔軟な適合力を発揮しながら、相互調整している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	教職員の採用は諸規程を整備して運用することは重要であると考えている。	教職員の勤務評価をおこなっていない。授業アンケートは現在授業改善のツールとして機能させている。	勤務評価と給与・人事を連動させ、また、その評価に公平性を保たせれば、証拠に基づく教職員管理が可能となるので、実施に向けて検討する。	自己申告書

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念実現のために、適切な人材が集まっているが、勤務評価と人事・給与制度が連動していない。現在の給与待遇が適当か判断するためにも、IGLが将来持続発展するためにも、人事・給与制度を整備する必要がある。	教職員の勤務評価を行っていない。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	意思決定システムを整備することは重要であると考えている。	校務運営組織図、各種委員会規程に則って運営している。	諸規程を整備し、権限を明文化することが必要と考えている。	校務運営組織図 委員会等規程集（目次）

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務等の業務処理において、意思決定システムを整備する必要がある。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	業務の効率化を図るためには不可欠であると考えている。	2校統合により新しく学生管理システムを導入した。本校業務遂行のために導入した新システムが円滑に稼働せず、来年度本格稼働となった。	メンテナンス及びセキュリティにおける体制の確立も必要である。	学校法人 IGL 学園情報公開規程

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2校統合を機に、一元的にデータを管理するために学生管理システムを導入した。システムを本校業務実態に適合させる作業に遅れが生じ、本格稼働に至っていない。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	野村 敏之
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>介護福祉学科、鍼灸学科、口腔保健学科は、それぞれ平成 24 年度（2012 年度）の活動実績を基盤として、平成 25 年度（2013 年度）「職業実践専門課程」文部科学大臣認定を受けた。柔整学科は、本年度の活動実績を基にして、平成 27 年度（2015 年度）文部科学大臣認定を受けた。</p> <p>介護福祉学科、鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科はともに厚生労働省指定教育課程による国家資格取得を目指す学科である。国家資格試験合格 100%を実現する責任がある。</p> <p>さらに、国家資格を土台として利用者さん、患者さんから喜ばれる介護・医療サービスを提供する専門職業人材養成施設である。</p> <p>卓越した又は熟達した実務の知識・経験に基づく高度の専門的かつ実践的な能力を育成するために、「教育課程編成委員会」を設置した。業界等のご意見をいただき、教育課程を編成し、シラバスを作成している。</p> <p>学生が修業年限に応じた学習成果を上げているか、教員は、知識・技術の伝達に留まらず、学生の基本的な生活習慣が確立されて勉学の実が挙げられているかを確認する為に、授業アンケートを実施する。その結果を活用して指導力改善に努める。</p> <p>学生の学習成果獲得のために、学校は組織的に動く。教務局、事務局が機能し、自己点検・評価、学校関係者評価を行う。</p> <p>上記のことは概ね方向性として実行されており、第三者評価（私立専門学校等評価研究機構の様式使用）に耐え得る学校になることを目指す。</p> <p>教育計画の遂行、学習成果の改善のために、教員の確保に努める。</p>	<p>「職業実践専門課程」文部科学大臣認定学科（平成 26 年 3 月 31 日） 介護福祉学科、鍼灸学科、口腔保健学科</p> <p>「職業実践専門課程」文部科学大臣認定学科（平成 28 年 2 月 19 日） 柔整学科</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	賀川 一樹
--------	----------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念に沿った教育の実施方針を定めることを方針としている。	<p>介護福祉学科 教育課程の編成は学科会議、教務委員会で定め学生便覧に明記している。今後導入される国家試験に全員合格するのみでなく、卒業後の就職先において、職業人として専門性、人間性、自己教育力を高めながら主体的に働けるよう学生を育成している。</p> <p>鍼灸学科 中期計画に社会の変化やニーズに対応できる「ハイレベルな鍼灸師」の養成を目指すことを目標にあげ、教育課程の編成をしている。</p> <p>柔整学科 中期計画にて、卒業時に国家試験合格に必要な知識を持った上で、実際に施術のできる即戦力のプロを養成することを目標にあげ、教育課程の編成をしている。</p> <p>口腔保健学科 学習や技術修得の速度に個人差が大きい現実を踏まえ、補習が必要な学生を十分指導できるように余裕をみたカリキュラムを組んでいる。</p>	オープンキャンパス等で話をしているが、文書化して外部に公表していない。今後HP等での公表を検討する。	中期計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念に沿った教育の実施方針を定めることを方針としている。	<p>日本語学科 留学生が目標とする大学等に入学し、学生生活に困難を感じないだけの日本語能力を身に着けさせる。</p> <p>国際教養コミュニケーション学科 外国人留学生に将来母国や日本で活躍できる人材になるための技能、知識を身に付けさせる。</p>	文書化して外部に公表していない。今後HP等での公表を検討する。	中期計画
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	理念に沿った学科毎の教育目標の達成に向けた教育課程を編成することは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 介護福祉士の国家資格取得を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。</p> <p>鍼灸学科 はり師・きゅう師の国家資格取得を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。</p> <p>柔整学科 柔道整復師の国家資格取得を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。</p> <p>口腔保健学科 座学においては歯科衛生士の国家試験に合格できるレベルを教育到達レベルとしているが、実技においては「これだけは他校出身者に負けない」と思える技術を各学生が一つ以上身につけさせるよう指導している。</p>	特になし。	資格取得状況一覧 教育課程表 シラバス 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	理念に沿った学科毎の教育目標の達成に向けた教育課程を編成することは重要であると考えている。	日本語学科 中国人留学生は日本語能力試験N2合格、ベトナム人留学生にはN3合格を取得目標として明示している。	特になし。	資格取得状況一覧 教育課程表 シラバス 事業計画
		国際教養コミュニケーション学科 クラスごとに日本語能力の目標を定め、学生が能力に応じたクラスで学習できるような教育課程を編成している。 N3レベルで入った学生はN2合格、N2レベルで入った学生はN1合格を取得目標として明示している。	クラスごとに目標は決まっているが、N2クラスの中でも実力差は大きく、学力が足りない学生に対して補講などで補っていく必要を感じている。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・校訓に沿った教育課程の編成方針、実施方針、学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確に示している。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	厚生労働省指定基準等に基づいて教育課程を編成することを方針としている。	<p>介護福祉学科 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。本校独自の教育内容を盛り込んでいる。本校独自の取り組みとして、DT(ダイバーショナルセラピー)プログラムを実施している。</p>	<p>本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。 プログラム修了証の全員獲得を目指し指導・助言を行う。</p>	<p>シラバス 教育課程表 DT プログラムに関する資料 トレーナー育成プログラムに関する資料</p>
		<p>鍼灸学科 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。本校独自の取り組みとして、トレーナー育成プログラムを実施している。</p>	<p>さらに本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高めることを検討していく。</p>	
		<p>柔整学科 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。本校独自の取り組みとしては、卒業研究の授業を実施している。学生自身が考え作り出すことで、自主性を育成する取り組みを行っている。トレーナー育成プログラムを実施している。</p>	<p>本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。カリキュラム上に重要項目となる科目の復習授業を設けている。 また、業界の動向を伝えるべく、業界関係者の講演などを設置している。</p>	
		<p>口腔保健学科 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。 本校独自の取り組み落として、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション学や多学科のメリットを生かした東洋医学、ヨガなどを取り入れている。</p>	<p>本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	厚生労働省指定基準等に基づいて教育課程を編成することを方針としている。	<p>日本語学科 「中国人学生 N2、ベトナム人学生 N3」の目標を達成するための教育課程を編成している。</p> <p>国際教養コミュニケーション学科 日本語のみならず、大学、社会生活で必要とされる知識、技術を身につけるための授業を展開している。</p>	本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。	シラバス 教育課程表
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	業界等関係者に参加をしていただく教育課程編成委員会を実施して、外部意見を反映させることは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 現場実習で現場の声を聴くとともに、教育課程編成委員会で業界関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。</p> <p>鍼灸学科 教育課程編成委員会で業界関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。</p> <p>柔整学科 教育課程編成委員会で業界関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。</p> <p>口腔保健学科 臨地・臨床実習で現場の声を聴くとともに、教育課程編成委員会で業界関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。</p> <p>日本語学科 研修で学んだことや非常勤講師からの意見を反映させている。</p>	<p>さらに多くの業界関係者から意見を収集するために、実習先等を通じて現場の意見を聴く機会を増やす。</p> <p>特になし。</p>	シラバス 教育課程編成委員会での提言に対する取り組み

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	業界等関係者に参加をしていただく教育課程編成委員会を実施して、外部意見を反映させることは重要であると考えている。	国際教養コミュニケーション学科 研修で学んだことや非常勤講師からの意見を反映させている。	新しいことばかりを取り入れて全体のバランスが崩れることがないように、注意を配る必要がある。	シラバス
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	専門知識・技術・技能に加えて、社会人に必要な基礎力を修得するためにキャリア教育が重要であると考えている。	介護福祉学科 通常カリキュラムに加え、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。関係施設に出向き、直接コミュニケーションを図ることにより、さらにコミュニケーション能力の向上に努めている。	現在の授業のみでは不十分でありキャリア教育の体系化を図ることを検討する。	シラバス 教育課程編成委員会での提言に対する取り組み
		鍼灸学科 医療面接の科目でコミュニケーションについての授業を行っている。また、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。	現在の授業のみでは不十分でありキャリア教育の体系化を図ることを検討する。	
		柔整学科 通常カリキュラムに加え、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。さらに医療面接の科目にてコミュニケーションについての授業を行っている。	現在の授業のみでは不十分でありキャリア教育の体系化を図ることを検討する。そのために、卒業生や業界の意見を聴取し、教示内容ならびに方法を検討する。	
		口腔保健学科 通常カリキュラムに加え、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。	現在の授業のみでは不十分でありキャリア教育の体系化を図ることを検討する。	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	専門知識・技術・技能に加えて、社会人に必要な基礎力を修得するためにキャリア教育が重要であると考えている。	日本語学科 入学から卒業までのキャリア教育カリキュラムを作成し、それに基づいて実施している。また日本で活動している卒業生や社会人外国人を招き、在校生に話をしてもらっている。	外国人ゲストのスケジュールと授業時間との調整が毎年難しく、実現が不定期になるので、次年度に向け検討していく。	シラバス
		国際教養コミュニケーション学科 キャリア教育では、入学から進学、就職までのイメージを描かせることで学習に対する動機づけを行うとともに、計画性をもって物事に当たれる能力を育成している。	今年度から、卒業生を夏に招き、早い時期から準備することの重要性を認識させる試みを始める。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	授業改善のためには、教える立場の視点のみでは十分でなく、学習者の視点での評価が必要であると考えている。	介護福祉学科 授業アンケートを実施している。集計結果の活用は教員個々に任している。	授業アンケートの結果を踏まえ、実際に授業を聴講し、授業内容の改善を促していく。	授業評価アンケート 授業アンケート集計
		鍼灸学科 授業アンケートを実施し、集計結果を学科長と各教員にフィードバックしている。問題がある教員には学科長が指導・助言をしている。	特になし。	
		柔整学科 授業アンケートを実施し、学生からの意見を共有している。方法として、学科長が各教員にフィードバックをし、指導または助言をしている。	アンケート結果だけではなく、実際に授業を聴講することで、内容を把握し、授業改善を促していく。	
		口腔保健学科 授業アンケートを実施している。現状では集計結果の活用は教員個々に任している。	授業アンケートをもとに学科長と各教員が話し合って改善の方向付けを検討する。	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-4 授業評価を実施しているか	授業改善のためには、教える立場の視点のみでは十分でなく、学習者の視点での評価が必要であると考えている。	日本語学科 半年ごとに行う授業アンケートの集計結果を各教員に返却する際、学科長による面談を行っている。	特になし。	授業評価アンケート 授業アンケート集計
		国際教養コミュニケーション学科 半期ごとに授業アンケートを行い、各教員に結果を渡す際には学科長面談を行っている。	面談前に授業見学をし、アンケートの結果だけに頼らない実践的な話し合いになるよう努める。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業は、厚生労働省指定基準・日本語教育振興協会等の教育課程に基づいて運営されている。枠組みは安定しているが、独自性を盛り込むことは可能なので、教育効果を高めるために工夫していく。キャリア教育・授業評価は組織的に実施されているとは言い難い。	医療・福祉系 4 学科は、厚生労働省指定基準があるため、独自の教育内容を盛り込む余地が少ない。業界等外部の意見等に対し柔軟な対応で業界との風通しの良い状況を作り、教育効果が高い取り組みを検討したい。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価等の基準を明確化し、適切に運用することは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。また、入学前に修得した単位の認定基準を学生便覧に明示し行っている。</p>	特になし。	学生便覧
		<p>鍼灸学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。また、入学前に修得した単位の認定基準を学生便覧に明示し行っている。</p>		
		<p>柔整学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。但し、国家試験合格を最大の目標とするため、臨機応変に対応する。また、入学前に修得した単位の認定基準を学生便覧に明示し行っている。</p>	原則、学則等に記載している基準に従うが、国家試験合格を最大の目標とするため、臨機応変に対応していく。内容としては、学力不足の学生に対しての個別指導を徹底する。	
		<p>口腔保健学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。また、入学前に修得した単位の認定基準を学生便覧に明示し行っている。</p>	特になし。	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価等の基準を明確化し、適切に運用することは重要であると考えている。	<p>日本語学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。</p> <p>国際教養コミュニケーション学科 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。</p>	特になし。	学生便覧
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	<p>介護福祉学科 広い視野を持つ機会を与えるために、介護に関わる研修会・発表会（介護の日フェスタ・ケアコンテストなど）へ参加を促した。</p> <p>鍼灸学科 以前は東洋療法学校協会主催の学術大会に研究発表を行っていたが、ここ数年は発表を希望する学生がおらず参加していない。</p> <p>柔整学科 学科教員が指導・引率し学外での学会発表等を積極的に行っている。内容としては、学生数名でグループ研究し、その成果を作品を通して壇上またはポスターにより発表している。</p>	<p>実際に参加学生に対し、終了後のアンケートを実施し、今後にかけるようにする。</p> <p>学生に研究発表の意義を説明し参加を促す。</p> <p>学生が研究をすることは、自主性・探究心を育むことに重要であるが、3年次に行っているため、2年後期から行うことにより、3年次の国家試験勉強の時間的余裕を作っていく。</p>	研修会・発表会等のパンフレット

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	口腔保健学科 現時点では学生の卒業研究は学会発表のレベルに達していない。前年度の卒業研究を参考に新しい試みを追加する形で研究の継続と蓄積を図っている。	特になし。	研修会・発表会等のパンフレット
	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	日本語学科 スピーチコンテストなどの応募を学生にも告示し、参加・受賞した学生は掲示・Facebook・たよりIGLなどで積極的に報告している。	平成 27 年度はスピーチコンテストの応募者、受賞者を出せなかった。引き続き積極的にコンテスト情報を公開していく。	研修会・発表会等のパンフレット
	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	国際教養コミュニケーション学科 作文、スピーチコンテストなどがあれば、告知を行い、参加を呼び掛けている。参加があった場合には、学内に報告を行っている。	スピーチコンテストなどの情報提供を強化し、参加者を増やす。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定等は学校教育の総決算であり、教育指導力の結果である。修業年限に応じた学習課題、最終学習到達目標として把握されるものであるから、透明性を高めると同時に、その基準は公示されなければならない。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	目標とする資格等を明確に位置づけることは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 介護福祉士を養成する学校であるので、明確に位置づけられている。国家試験対策授業も行っている。</p> <p>鍼灸学科 はり師・きゅう師を養成する学校であるので、明確に位置づけられている。国家試験対策授業も行っている。</p> <p>柔整学科 柔道整復師を養成する学校であるので、明確に位置づけられている。国家試験対策授業も行っている。</p> <p>口腔保健学科 歯科衛生士を養成する学校であるので、明確に位置づけられている。国家試験対策授業も行っている。</p> <p>日本語学科 日本語能力試験を目標とした教育課程を設定している。</p>	特になし。	学校パンフレット 学生便覧 シラバス 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	目標とする資格等を明確に位置づけることは重要であると考えている。	国際教養コミュニケーション学科 日本語能力試験 N3 レベルに入った学生は N2、N2 レベルに入った学生は N1 を目指した教育課程を設定している。また日本留学試験の対策授業を行うことで高得点取得も目指している。	特になし。	学校パンフレット 学生便覧 シラバス 事業計画
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	高い合格率をあげるためには、指導体制を構築することは重要であると考えている。	介護福祉学科 各教科に特講の授業を設け、統一試験対策授業を行っている。平成27年度、卒業時共通試験において、全国平均を上回る合格率となっている。	個人のレベルに合わせた内容課題を与え、全体のレベル向上を目指す。	教育課程表 シラバス 行事予定 授業聴講制度資料
鍼灸学科 カリキュラムに国家試験対策授業を組んでおり、模擬試験も年5回実施している。成績不良者には勉強会や特訓を実施している。また、不合格者に対して1年間無料で授業が受けられる聴講制度を設けている。	3年次だけではなく、1,2年次の早い時期から学習習慣をつけていくことが重要である。			
柔整学科 カリキュラムに国家試験対策授業を組んでおり、模擬試験も年7回実施している。成績不良者には(勉強会や補講)を実施している。また、不合格者に対して1年間無料で授業が受けられる聴講制度を設けている。さらに必修問題対策の講義を3年次後期に設定している。また、既卒不合格者に対しての国家試験対策を、1月より3月にかけて行った。	主要教科にはそれぞれの科目に繋がるものを設定する。解剖学ならびに生理学に関しては復習授業を、柔道整復学には口頭試問でアウトプットの学習方法を設置し、国家試験問題に繋がる方法をとっていく。不合格者に対しては、国家試験対策に特化した講座を前年度より早い8月より開催し、さらに授業聴講制度も同時開催して、合格へバックアップしていく。			

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	高い合格率をあげるためには、指導体制を構築することは重要であると考えている。	口腔保健学科 2年次に「総合演習」という科目を設け既習科目の復習を行っている。 3年次では臨床実習期間内から随時「国試対策」補講を行い、11月からほぼ毎日補講を行っている。	特になし。	教育課程表 シラバス 行事予定 授業聴講制度資料
		日本語学科 1年生のうちから、段階的に日本語能力試験対策授業をカリキュラムに組み込んで実践している。また、定期的に模擬試験を実施している。		
		国際教養コミュニケーション学科 日本語能力試験と日本留学試験に特化した授業をそれぞれ行い、目標達成を目指している。また試験前には模擬試験も行っている。	学力が追い付かない学生に対し、補講が必要か検討する。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
厚生労働省の国家資格取得を目指す学科と、日本語能力検定合格を目指す学科がある。教育課程上の位置付けは明確だが、教育指導の質にはバラツキがあり、指導力向上は教務部が組織的に行う体制を整えつつある。	学科の中期計画、自己申告書により、指導力向上を目指している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	厚生労働省指定教育課程等に対応した、資格・要件を備えた教員を確保することは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 厚生労働省指定教育課程に対応した、資格・要件を備えた教員を確保している。</p>	<p>基準を越えた良質の教員の採用と、内部研修を進めていく。</p>	<p>中期計画 教員名簿</p>
		<p>鍼灸学科 あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則で定められた資格・要件を備えた教員を確保している。</p>	<p>基準を備えた良質の教員の採用と、内部研修を進めていく。</p>	
		<p>柔整学科 柔道整復師に係る学校養成施設認定規則で定められた資格・要件を備えた教員を確保している。</p>	<p>基準を越えた良質の教員の採用と、内部研修を進めていく。さらに、教示可能科目以外の国家試験対策を遂行できるスキルを他教科授業聴講等により各教員が上げていく。</p>	
		<p>口腔保健学科 厚生労働省指定教育課程に対応した、資格・要件を備えた教員を確保している。</p>	<p>基準を越えた良質の教員の採用と、内部研修を進めていく。</p>	
		<p>日本語学科 日本語教育振興協会の基準より高い条件（日本語教育専攻者または日本語教育能力検定合格者）で教員を確保している。</p>	<p>特になし。</p>	
		<p>国際教養コミュニケーション学科 専修学校の設置基準を満たす教員を確保している。</p>		

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか	専門性の資質向上への取組みは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 介護福祉士養成施設協会主催の教職員研修会や教育学会に参加している。介護福祉士国家試験対策セミナーに参加している。医療的ケア教員講習会に参加している。</p> <p>鍼灸学科 東洋療法学校協会主催の教員研修会に参加している。また、関連業界団体が主催する様々な研修に参加している。</p> <p>柔整学科 柔道整復師学校協会主催の教員研修に参加している。接骨医学会主催の教員研修に参加している。その他、各種関連業界団体が主催する様々な研修に参加している。</p> <p>口腔保健学科 広島県歯科衛生士教育研究会（7月）応急手当普及員講習（8月）日本歯科衛生教育学会（11月）（以上、外部での研修）学校リーダー研修、新任教員研修（以上、学内研修）等で研修を実施している。</p> <p>日本語学科 各教員が外部研修に参加し、学んできた内容を会議などで共有している。</p>	特になし。	研修等の実績 研修会の報告書

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか	専門性の資質向上への取組みは重要であると考えている。	国際教養コミュニケーション学科 各教員が外部研修に参加し、学んできた内容を会議などで共有している。また、学内でも専任、非常勤講師が参加する日本語教育に関する研修を行い、技術の向上に努めている。	特になし。	研修等の実績 研修会の報告書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	組織体制を整備し、業務分担等を構築することは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 毎月学科会議を行い、学科内の連携・協力体制を図っている。関連する科目に関しては、教員間（非常勤教員含む）でコミュニケーションを図り、つながりのある授業を展開している。</p> <p>鍼灸学科 毎月学科会を行うことで学科内の連携・協力体制がとれている。非常勤講師との連携は担任を中心に行っている。</p> <p>柔整学科 毎月学科会を遂行し、学科内の連携・協力体制を取っている。同科目の強化に関しては、教員間でコミュニケーションを密に取ることで、つながりのある授業を展開している。 兼任（非常勤）の授業に関しては、常勤教員が聴講し、学生へ勉強方法などをレクチャーしている。</p>	特になし。	校務運営組織図

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	組織体制を整備し、業務分担等を構築することは重要であると考えている。	口腔保健学科 毎朝学科独自のミーティングでその日の業務や懸案事項についての情報交換を行っている。非常勤講師とは来校時、授業後に挨拶とともに授業の様子を聞くようにしている。	特になし。	校務運営組織図
		日本語学科 学科内での業務分担を行い、学科長の指揮の下に逐次報告しながら業務を進めている。		
		国際教養コミュニケーション学科 学生の学力向上のための情報交換を密に行う。内部進学者に関しては、日本語学科教員とも連携し、協力している。		

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
厚生労働省指定国家資格取得者養成施設、日本語教育振興協会指定校であり、資格・要件を整えている。中期計画実現を目指すために、学校を上げて組織的に取り組んでいく。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、福祉と医療に関する専門知識を習得し、健康で明るい社会を創造する人材の育成と、日本の大学等に進学を希望する外国人留学生に対して、日本語教育及び日本文化等の教育を行い、高等教育を受けるに必要な日本語力を養う教育機関である。</p> <p>したがって、それぞれの国家資格・日本語能力検定等を取得して、実技を大切に熟練した職人技を身に付けることを目指す。国家資格は 100%合格、就職希望者の 100%就業、全員希望校への進学を目指す。</p> <p>入学してきた学生が、多様な条件を抱えているが故にその困難条件を克服して、実力ある職業人・卒業生となるように、教職員が協力して指導する。</p> <p>同窓会について、統合までは IGL 健康福祉専門学校同窓会、同医療専門学校同窓会として独自に活動してきた。統合後は I G L 医療福祉専門学校同窓会として、卒業生の支援をして頂く。個々人の力量によって世渡りをしていくが、同業者としての情報交換・研修を通じて資質向上に努めようとされている。</p> <p>学生支援システム「インフォクリッパー」によって、入学前情報・学習成績・卒業後の進路先情報の一元管理を行う予定である。「インフォクリッパー」の機能を発揮させて、卒業生支援を行えると期待している。</p>	<p>鍼灸学科及び柔整学科 3 年生全員・2 年生の希望者を対象に、鍼灸院・接骨院・医療福祉機関等の求人希望者との「就職懇談会」を学校で開催した。</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	賀川 一樹
--------	----------------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職希望者全員の就職を目指している。就職委員会を中心に就職担当者が積極的に取り組むことが重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 就職担当が全学生に向け定期的に就職ガイダンスを実施、就職に向けて段階的に指導しつつ、個人別に状況を把握し適切な支援を行う。又求人施設等との情報交換を行い、就職のマッチングに活かす。希望者は100%就職している。</p>	<p>キャリア教育導入により、学校全体の職業意識向上を図る。</p>	就職支援業務予定表 就職状況一覧
		<p>鍼灸学科 3年生担当が学生の就職活動を個人別に把握し適切な就職支援・指導を行っている。また、学校独自の就職懇談会を実施している。</p>	<p>課題として、懇談会形式では希望企業に対して学生が必ず説明を聞くような形が取れない場合があった。 事前に学生に企業情報を提供した上で企業選択をさせ、グループ形式で希望企業のプレゼンテーションを聞けるようにする。 さらに、就職説明会の時期を早めることにより、国家試験の勉強をするモチベーションとする。</p>	
		<p>柔整学科 就職担当が学生の就職活動を個人別に把握し適切な就職支援・指導を行うと共に外部企業を招き、学校独自の就職懇談会を実施している。希望者は100%就職している。</p>	<p>履歴書レクチャーなどを行っている。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職希望者全員の就職を目指している。就職委員会を中心に就職担当者が積極的に取り組むことが重要であると考えている。	口腔保健学科 8月に就職活動に関する説明会を行った後、求人表を公開する。3年生担任が各学生の適性を把握し適切な助言・指導を行っている。希望者は100%就職している。	歯科衛生士としての将来のキャリアアップを視野に入れた、就職指導ができるよう教員が情報収集を行う。	就職支援業務予定表 就職状況一覧
		日本語学科 日本語学科は就職を目標とする学科ではないため、就職指導は希望者に個別に実施している。	今後就職希望者が増加する可能性を検討し、その時に備えて情報を集めておく。	
		国際教養コミュニケーション学科 国際教養コミュニケーション学科は就職を目標とした学科ではないので、就職指導は希望者のみに対して個別に行っている。進学に関しては、授業時間外に個人面談や面接練習を行うことで、全学生が自信をもって入試に臨める状態になるよう指導をしている。	2015年度は学生5名が就職を果たした。今後、就職希望の学生が増える可能性もあるので、情報を集める必要がある。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人数は求職者数を大きく上回る現状であるので、就職率は良好である。職業意識について、十分な教育をする必要がある。理論的にキャリア教育を把握して教材作りをするとともに、カウンセリング機能を果たすために、キャリアカウンセラーを養成する。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートすることが重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 全員が合格するよう個別指導を放課後実施している。 各教科に特講を設け、国家試験問題や模擬問題を繰り返し行い、解説をし、理解度を図っている。卒業時共通試験では平均点を上回る成績であった。</p>	<p>国家試験導入に当たり、学生全体の能力アップ、および合格率を上げるための対策授業を行う。 学生一人ひとりの能力に応じた授業展開の工夫をする。</p>	<p>資格取得状況一覧 シラバス 入学前サポート資料</p>
		<p>鍼灸学科 合格率 100%を目指して指導を行っている。国家試験対策授業を設けている他、成績不良者には勉強会や特訓を実施している。 平成 27 年度の合格率は、はり師、きゅう師共に 92.3%であった。(全国平均はり師 87.6%、きゅう師 88.9%)</p>	<p>体調不良のため最後の頑張りが間に合わず、1名の不合格者がでた。年内に合格できる力を付けさせる指導を行う。</p>	
		<p>柔整学科 全員が合格するよう個別指導を放課後実施している。 さらに、必修対策講義を設置し理解度を図った。さらに入学前サポートプログラムにより、入学後の不安を取り除くシステムを構築した。 平成 27 年度新卒合格率が 59.1%であった。 (全国新卒合格率 82.2%)</p>	<p>過去に例のない合格率であった。1年次より、国家試験重要科目では復習となりうる授業を設置することで、専門科目に繋がる専門基礎科目の知識向上に努める。2年次にも、重要科目の復習授業を設置し、国家試験に備えるよう知識の固定を図る。入学する学生の状況も年々変化している。学生個々の状況から入学前から教育プログラムで来校させてのサポートも行う。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートすることが重要であると考えている。	口腔保健学科 国試対策は2年次から競争させつつ個々の実力を見極め、成績が上がらない学生個々の生活習慣、勉強方法の改善を指導することから始め、少人数の補講や個人指導を国試直前まで行っている。	2年次学生のモチベーションをいかに高めるかが課題で、模擬試験の成績に応じて課題の量を変えるなどきめ細かい指導を試みる。	資格取得状況一覧 シラバス 入学前サポート資料
		日本語学科 日本語能力試験合格者数の目標人数を設定し、全教員がそれを意識して指導している。	積極的なチャレンジを推奨しているため、「合格率」は低い。それでも、日本語学科においては合格者数の方が重要だと考えるため、この方針で指導を行う。	
		国際教養コミュニケーション学科 学生が試験分析を行うことにより、試験に対するメタ認知的知識を持たせ、自信をもって試験に臨めるよう指導している。試験結果は教員間で共有し、次年度の指導に生かすべく、授業の改善に取り組んでいる。また対策授業はもとより、合格者には特別奨学金を授与することでモチベーションの向上にも繋げている。	合格率を上げるための対策授業の内容改善を常時行っていく。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業教育学校としては、国家資格全員取得が目標である。日本語能力試験(JLPT)は、中国人N2、ベトナム人N3以上合格が目標である。 入学時から目標達成のために全力を尽くすのみ。達成できなかつたら、学校の存在価値が問われる。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の活躍により業界等から学校に対する評価が上がり、在校生の就職につながっていくことが一番の社会的評価だと考えている。	<p>介護福祉学科 実習担当者が実習巡回先で卒業生の状況の把握に努めている。</p>	<p>卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握することを検討している。</p>	同窓会 HP 親子スキンタッチ教室
		<p>鍼灸学科 同窓会とも連携し、卒業生の動向の把握に努めている。卒業生の開業先をファイルにして保管している。</p>	<p>卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握する。</p>	
		<p>柔整学科 同窓会とも連携し、卒業生の動向の把握に努めている。卒業生の開業先をファイルにして保管している。</p>	<p>卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握することを検討する。 さらに、「良い学生は良い職場に」をテーマに企業情報も把握し、企業にマッチングした人材を送ることで、卒業生の評価も上げるものとする。 定期的に就職先に訪問し、学生の状態把握をしていく。通信媒体での学生からの報告も取っていく。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の活躍により業界等から学校に対する評価が上がり、在校生の就職につながっていくことが一番の社会的評価だと考えている。	口腔保健学科 実習担当者が実習巡回先で卒業生の状況の把握に努めている。	卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握することを検討している。	同窓会 HP 親子スキンタッチ教室
		日本語学科 本校を訪ねてくれる学生やパンフレット・DVDに出演してくれる卒業生などについては、詳細に実態を把握している。	実態を把握できている卒業生の人数は少ない。卒業生が在籍する学校の担当者と話す機会が得られたときに、近況をうかがってみる。	
		国際教養コミュニケーション学科 卒業生が進んだ進学先の大学とは、進学説明会などで顔を合わせた際、卒業生について話を聞いており、良好な関係を築いている。	今後も積極的に卒業生の進学先と連携を取る。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家資格取得者が高く評価されるよう、業界事情の把握に努めるとともに、厚生労働省、日本語教育振興協会と連携して社会的地位向上に努める。</p> <p>同窓会と連携して、卒業生の活躍実態を把握し、学生に報告する。在校生の職業に対する誇りを高め、学習意欲向上に努める。</p>	<p>データ管理されてこなかった。学生管理システムを導入して、卒業後の進路情報管理を一元化する。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラス担任と就職担当教員が連携をとりながら学生指導する体制になっている。</p> <p>入学した学生が全員卒業できるように日常の出欠状況、学生生活、授業態度等を確認し問題を早期に把握し、必要に応じて保護者と連携して対応している。</p> <p>経済的困難な学生に対しては、公的奨学金の紹介や学費の延納・分納を行っている。</p> <p>学生の健康管理は、法に基づき健康診断を行っている。</p> <p>本校の学生寮を提携して生活環境の支援を行っている。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	支援組織体制は、就職活動にきめ細かく対応するために重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 就職委員会と担任が連携して対応している。 学生の就職活動状況（見学会や説明会参加など）を報告書にて管理し、教員間で共有している。 履歴書の書き方（封書の宛名書きも含む）、面接の仕方、マナー（電話対応、身だしなみなど）について指導を行っている。 就職担当教員や担任が、学生からの就職に関する相談や質問に対して、面接などで適宜対応している。</p>	<p>積極性に欠ける学生の増加と個別就職相談の充実が必要である。 学生の就職に対する意識付けが必要となる。 履歴書送付時の封書の宛名の書き方の更なる指導が必要である。</p>	就職状況一覧 就職懇談会実施要項 マナー講座実施要項 委員会名簿
		<p>鍼灸学科 就職委員会と担任が連携して対応している。 学生の就職活動状況を管理、共有している。 就職懇談会を開催している。 マナー講座を開催し面接時のマナーや服装、髪型など指導している。 担任は就職に関わる悩みや質問に対し随時適切に応じるため、面談など体制を作っている。</p>	<p>就職担当者以外の教員が情報を共有するため、学生管理システムを有効に活用していく。 マナー講座に加えて履歴書の書き方指導をする。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	支援組織体制は、就職活動にきめ細かく対応するために重要であると考えている。	<p>柔整学科 就職委員会という組織と連携し担任が進路・就職支援を行っている。学生の就職活動状況を管理、共有している。 柔道整復師の業界説明会を3年次に開催している。 就職懇談会を開催している。 マナー講座を開催し面接時のマナーや服装、髪型など指導している。担任は就職に関わる悩みや質問に対し随時適切に応じるため、面談など体制を作っている。</p>	<p>就職説明会での学生の事前準備と積極性に欠けるところがある。そのために早期に就職説明会を開催し、就職に対する意識付けを早める。 マナー講座に加えて履歴書の書き方指導をする。</p>	就職状況一覧 就職懇談会実施要項 マナー講座実施要項 委員会名簿
		<p>口腔保健学科 8月に就職活動に関する説明会を行った後、求人表を公開する。3年生担任が各学生の適性を把握し適切な助言・指導を行っている。</p>	<p>積極性に欠ける学生の増加と個別就職相談の充実が必要である。</p>	
		<p>日本語学科 日本語学科は就職を目指す学科ではないため、就職を支援する体制を設けていない。</p>	<p>特になし。</p>	
		<p>国際教養コミュニケーション学科 国際教養コミュニケーション学科は就職を目的にした学科ではないため、支援組織は整備していない。 進学進路については、日本語学科と協力の元、情報収集、整理を積極的に行っている。</p>		

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出口戦略として就職・進学は重要である。日常の学修成果として、就職活動・進学受験対策が位置づけられる。したがって、入学から卒業までのキャリア教育が構築されなければならない。キャリア教育の理論的整理のためにも、キャリアカウンセラーを養成する。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-17 (1/1)

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	相談体制を整備し、問題解決に適正に対応することが重要であると考えている。	介護福祉学科 一般教養が身に付いていない、学業に不安がある学生が多い。 授業内で理解度を確認しながら、個別に対応が必要な学生には、補講や面談、保護者との連携などで対応している。 入学前サポートを導入した	学力低下、成績不振などの状態になっている学生を早期に発見し、対応することにより、学生の学習意欲の維持・向上を促し、より良い学生生活を支援する。 学業に不安のある学生には、入学前サポートを促す。	退学状況一覧 入学前サポートプログラム資料

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	相談体制を整備し、問題解決に適正に対応することが重要であると考えている。	<p>鍼灸学科 成績不良により 2 名退学、家庭の事情により 1 名退学した。成績不良者には早めに面談を行い、勉強会等の指導を行った。また、新規入学者を対象に入学前サポートプログラムを実施している。スクーリングを行い予習をさせることにより、入学後スムーズに勉強に取り組めるようにする</p>	<p>学力の低下が著しく、勉強に付いていけない学生が多い。入学後の勉強会だけでは不十分であるので、入学前から勉強する習慣を付けさせるため、入学前サポートプログラムの参加を積極的に促す。</p>	<p>退学状況一覧 入学前サポートプログラム資料</p>
		<p>柔整学科 近年、学業に不安のある入学生が増えている状況にある。中途退学者の 55%（過去 3 年間退学者 18 名内 10 名）が成績不良によるものであった。勉強方法などで悩む場合もあるので、1 年次から柔整学科独自の勉強会を週 3 回実施した。スクリーニングテストを実施した。入学前サポートを導入した。</p>	<p>学業に不安のある学生には入学前サポートを促す。入学前のサポートプログラムを強化する。また早期にスクリーニングテストを実施して勉強面での不安や心理面での不安を見つけて個別に面談できる環境をより良くする。</p>	
		<p>口腔保健学科 個々により退学要因は様々である。問題を早期に把握し、必要に応じて保護者と連携して対応している。</p>	<p>問題を早期に把握し、解決するために、教職員は小さな問題を見逃すことのないよう感知することが重要である。</p>	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	相談体制を整備し、問題解決に適正に対応することが重要であると考えている。	日本語学科 生徒指導記録を詳細につけ、起きつつある問題を随時把握している。その時にできうる最善の対策を取っている。	交通規則違反のような、学校外で学生がとってしまう問題行動をどのように指導していけば防げるかを常に考える。	退学状況一覧
		国際教養コミュニケーション学科 出席率低下による退学者を出さないために、学生の様子に気を配っている。生活管理の難しい学生には早い時点で面談を行い、改善を促している。面談の際には生活指導記録をつけ、教員間での情報の共有を図っている。	2015年には2名の退学者があった。そのため、問題が起こった際に後手に回らないよう、常に最新の情報を得て、動けるよう準備しておく。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラス担任は、出席簿の確認や授業科目担当教員、クラスメイトからの情報により、日常の出欠席、遅刻の確認と学校生活、授業態度等の確認を、定期的及び必要に応じて随時行い、出席状況の思わしくない学生の状況を把握し、退学の兆候やサインを見逃さないようにする。</p> <p>経済的理由からの退学は、奨学金制度等の活用で対応する。</p>	<p>医療・福祉系4学科は、入学前サポートプログラムを導入している。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	相談体制を整備し、修学支援等を行うことは重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 学科教員間での情報共有をしっかりと行い、担任および学科で十分に対応できている。</p>	特になし。	面談記録
		<p>鍼灸学科 学科教員間での情報共有をしっかりと行い、担任および学科で十分に対応できている。</p>		
		<p>柔整学科 学生相談室を設置して担任を中心に相談対応を行っている。面談記録を残す。また、担任のみでは困難な例では学科または学校で対応する。また、学科教員間で情報共有に努めており、様々な視点から学生をサポートしている。</p>	教務の業務や事務作業等で対応できない場合があるので、業務分担を明確にし相談を円滑に行えるようにする。	
		<p>口腔保健学科 実際には担任が一次的な対応を行い、対応しきれないときは学科会で指導方針を相談している。学生生活委員会の支援は今までのところ実際に行われていない。</p>	専門的なカウンセリング能力を持った相談相手が学生の身近にいることが望まれる。	
		<p>日本語学科 担任が学生の様子を観察し、状況に応じて面談などでカウンセリングを行っている。言語的な問題がある場合は、留学生部による通訳に入ってもらっている。</p>	特になし。	

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	相談体制を整備し、修学支援等を行うことは重要であると考えている。	国際教養コミュニケーション学科 担任が学生の状況に応じて面談を行っている。担任一人では対応できない場合は、学科長、校長を含めた面談を行っている。	特になし	面談記録
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	異文化社会での修学生生活を支援するためのネイティブ担当者を置くなどの整備を行うことが重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 留学生生活指導委員会へ定期的 に開催している。 担任および留学生部が連携し対応 している。</p> <p>鍼灸学科 現在留学生は在籍していない。</p> <p>柔整学科 現在留学生は在籍していない。</p> <p>口腔保健学科 留学生生活指導委員会を定期的 に開催している。 担任および留学生部が連携し対応 している。</p> <p>日本語学科 留学生学生生活委員会を定期的 に開催している。 担任および留学生部が日常生活支 援を行っている。 日本語学科教員と留学生部は十分 な連携が取れている。</p>	特になし。	留学生生活指導委員 会規程 留学生生活指導委員 会 議事録

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	異文化社会での修学生生活を支援するためのネイティブ担当者を置くなどの整備を行うことが重要であると考えている。	国際教養コミュニケーション学科留学生学生生活委員会を定期的で開催している。 留学生部が日常生活支援を行っている。 教員と留学生部との連携を密にしている。	特になし	留学生生活指導委員会規程 留学生生活指導委員会議事録

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任が学生相談を日常的に行い、学修成果を高める。全学的な課題は、学生生活委員会が扱う。 留学生に対しては、留学生部が日常生活支援を行い、定期的に留学生生活指導委員会を開いている。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	経済的困難の学生は年々増加の傾向にある。相談にきた学生については、個々の状況に応じて対応することが重要であると考えている。	<p>介護・鍼灸・柔整・口腔 特待生入試制度を設け、最大 50 万円の学費を免除している。 経済的困難な場合に分納、延納制度を設けている。 災害時、傷病時、弔慰金を学生慶弔見舞い規程を設けている。 教務部（担任）と事務部を中心に日本学生支援機構（公的制度）の相談や申込みなどを実施している。また経済状況について保護者、学生と面談を行う。</p> <p>日語・国際 経済的困難な場合に分納、延納制度を設けている。 教務部（担任）と事務部を中心に日本学生支援機構（公的制度）の相談や申込みなどを実施している。</p>	<p>経済困難学生は学費のみならず、生活も困窮している場合がある。そのような学生に対し、一定の基準を満たすことを条件に本校独自の奨学金制度を整備する必要がある。</p> <p>【 基準 】 授業態度、勉学意欲、クラス貢献度、授業成績など、多角的も判断する。</p>	学生募集要項 授業料納入規則
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	教育機関として、健康管理を行う体制整備は必要不可欠であると考えている。	<p>日常的な健康管理を行うとともに、年に 1 度定期健康診断を実施している。また、禁煙講習会、エイズ予防講習会なども実施し、健康管理に興味を持てるように努めている。 体調不良学生が利用できる保健室を設けている。 I G L グループ内にクリニックがある。</p>	<p>保健室の利用に関しては各学科で対応している。 I G L グループ内クリニックとの連携を強化する。</p>	行事予定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	学生寮等を設けて生活環境を確保することは必要であると考えている。	専用の女子寮・学校借上男子寮(留学生対象)を設けている。 不足する場合は、不動産業者を紹介するなどの支援を行っている。 留学生が入寮している寮は、定期的に巡回し、生活指導を行っている。	特になし。	学生便覧 学校案内パンフレット
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	多様・多忙な学生生活に潤いを与える課外活動を充実させる事が望ましいと考えている。	現在、野球部・柔道部・中国武術部が活動している。 各部に大会への引率に対し、補助等を行っている。	特になし。	

※点検進捗 4: 優れている 3: 適切である 2: やや不適切 1: 改善が必要

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
経済的に余裕のない学生が、健康で豊かな学生生活を送れるように支援することが課題である。学生生活委員会が学生生活実態を把握して、学修成果が出るよう支援体制を整える。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	学修支援・生活指導等の面で保護者との連携は不可欠であると考えている。	介護・鍼灸・柔整・口腔 必要に応じて、個別に保護者と電話又は面談し、面談記録を作成し学科で共有している。	問題が起こる前から連携体制を構築するため、保護者会を実施する予定である。	成績通知表の送付
		日本語学科 留学生について気になることがあった場合は、早い段階で保護者連絡を行うようにしている。	まじめな学生や成績優秀な学生は、どうしても保護者連絡の優先度が低い。彼らの活躍をどう知らせるか、方法を検討する。	
		国際教養コミュニケーション学科 留学生に対しては、生活態度や学費面で問題がある場合のみ、留学生部を通して保護者への連絡を行っている。	特になし。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学から卒業まで密接な保護者との連携体制を維持していく。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	同窓会・業界等との連携を密にして、卒業生への支援体制を整備することは重要であると考えている。	<p>介護・鍼灸・柔整・口腔 同窓会を組織している。卒業生の教員が中心に活動しており、状況を把握している。 卒業生にも図書室を開放しており、本や資料の貸し出しも行っている。</p> <p>日本語学科 日本語学科卒業生は高等教育機関に所属するため、そこでの指導に任せている。</p> <p>国際教養コミュニケーション学科 個人的に問い合わせがあった場合は、教員が対応する。 学科内全体での支援は特に行っていない。</p>	<p>学生管理（支援）システム導入を活用して、さらに連携を深めていく。 同窓会との日常的連携を深めていく。</p> <p>実態を把握することが重要だと考えている。</p>	同窓会 HP 同窓会会則
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業生に対して再教育を行うことは、卒業生にとっても、在校生にとっても将来展望を持ち、また安心感を持つ機会となるので産業界等の連携は重要であると考えている。	<p>介護福祉学科 卒業生が訪ねて来た時に、講習会の情報を連絡している。</p> <p>鍼灸学科 同窓会主催の研修会を支援し卒業生のキャリアアップを支援している。</p>	教育課程編成委員会のご意見を活用して、卒業生の再教育の場を増やしていく。	介護実習の要綱 社会福祉現場実習の要綱 同窓会主催研修会案内 研修会資料

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業生に対して再教育を行うことは、卒業生にとっても、在校生にとっても将来展望を持ち、また安心感を持つ機会となるので産業界等の連携は重要であると考えている。	<p>柔整学科 同窓会主催の研修会を支援し卒業生のキャリアアップを支援している。</p>	<p>教育課程編成委員会の意見を活用して、卒業生の再教育の場を増やしていく。</p>	<p>同窓会主催研修会案内 研修会資料</p>
		<p>口腔保健学科 同窓会主催の実技研修会を実施している。</p>		
		<p>日本語学科 日本語学科では卒業生が社会人の再教育プログラムの要件に該当するケースがないため、設けていない。</p>	<p>特になし。</p>	
		<p>国際教養コミュニケーション学科 国際教養コミュニケーション学科では卒業生が社会人の再教育プログラムの要件に該当するケースがないため、設けていない。</p>		

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	学校の教育機能を社会人に提供する事は望ましい。IGLブランドの強化になり、引いては本校への学生募集にも貢献することになるので重要であると考えている。	<p>介護・鍼灸・柔整・口腔 社会人に対して既修得科目の認定を行っている。</p> <p>日本語学科 留学ビザでは社会人や就労学生を受け入れることがないため、設けていない。</p> <p>国際教養コミュニケーション学科 留学ビザでは社会人や就労学生を受け入れることがないため、設けていない。</p>	特になし。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育の質向上のためには、できるだけ多くの卒業生・社会人に向けた取り組みをするのが好ましい。IGLのブランド力を高めるためにも、卒業生・社会人への取り組みは有効だと考える。	本校は同窓会組織がしっかりしており、同窓会会員だけでなく在校生をも研修会参加の形で支援している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	賀川 一樹
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「養成施設指導要領」・「専修学校設置基準」・「日本語教育機関の運営に関する基準」で義務付けられている施設・設備等は、法令等の基準通りに完備している。</p> <p>業界等のニーズに即した設備・備品等は精査して教育上必要不可欠な物に関しては、順次揃えている。</p> <p>耐用年数を超えた施設・設備等の点検を迎えようとしている。</p> <p>介護福祉学科、口腔保健学科は実施要綱等を整備してそれぞれ学外で介護実習、臨床実習を行っている。鍼灸学科、柔整学科は校内の附属鍼灸院・接骨院で学生指導にあたるとともに、地域の治療院訪問等及びで現場実習を進めている。</p> <p>防災に対するハード面は整備されている。防火訓練・災害避難訓練等について、消防署のご協力を得て実施してきた。</p>	<p>校舎と同じ区域に、母体グループの高齢者施設・乳幼児施設があることで、グループをあげた協力体制による実践的な教育指導が可能である。</p> <p>平成 26 年 8 月 20 日、広島市域集中豪雨による建物被害の教訓から、悪天候が予測される段階で事前に起こりうる被害を未然に防ぐ努力を行った。</p> <p>また、休講措置など緊急時の学生対応の実施における連絡体制の強化を図った。</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	立川 真成
--------	----------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	関係法令で定められた施設・設備・教育用具等を備え、各学科の教育目標に対応できるように整備することが重要であると考えている。	国家資格系の養成施設として認可を受けており、法令遵守が前提となり施設・設備・機器・図書等に関しては問題なく整備している。校舎内は定期的にパート職員が清掃し清潔に保たれており、施設・設備の日々の点検を行い、定期点検は管理会社に委託している。障害者用トイレのバリアフリー化設置等、必要に応じバリアフリー化を進めている。	中長期的な更新・補修計画の取り組みが必要である。	養成施設等の設置基準資料

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
鍼灸学科、柔整学科は15年経過・口腔保健学科は9年を経過した。設備・教育用具は業界等のニーズに即した対応が必要不可欠となる。教育にとって必要な機器備品は順次揃えている。介護福祉学科においても同じように計画的な更新を行っていく。	特になし

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

6-23 学外実習・インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学生の社会的学びとして大切であると考えている。	学外実習は法定実習はもとより他の実習についても教育課程上に位置づけられている。実施に際し、要綱等に評価基準を明確にし、受入れ施設等と綿密に打合せを行っている。海外短期研修は、国際教育という理念に基づく教育実践の場として鍼灸学科・柔整学科が上海中医薬大学で研修を実施した。	学生数の増減を考慮した実習施設の開拓が必要である。 実習施設との事前の連携体制の構築を図る。 海外短期研修の参加者減少に対する解決策を早急に取り組む。	行事予定 実習施設訪問指導報告書

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習は法令等の基準により指定されているものを始め、教育目的達成と人材育成のために必要なものをカリキュラムに位置づけて実施している。 インターンシップは実施していない。	学外実習を行った結果、記録・コミュニケーション能力をさらに高める指導力向上が課題である。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防署の指導の下で、自衛消防組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施が重要であると考えている。	消防計画を定め、運用している。年に1回避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施している。消防設備の整備や保守点検は法令に基づき実施し、改善指導等に適切に対応した。	校舎配置・避難訓練経路図の作成等、更なる整備の検討が必要である。	消防計画 自衛消防隊総合訓練実施計画
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	安全管理体制の整備は学生及び教職員の安全を守るために重要であると考えている。	教職員間の緊急連絡網の整備・学生への緊急連絡は学科毎に整備している。 自動車通学生向けの安全運転講習会は、新入生を対象に実施している。	学生の安全確保、教職員の危機管理について、更なる安全管理体制の整備が必要である。 道交法の改定に伴い、自転車通学者対象の講習会の検討が急務である。	学生・生徒災害傷害保険

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>防災に関しては、組織体制が整備され、計画通り年1回の防災訓練・消防設備の点検を実施した。</p> <p>安全管理体制については、連絡体制を再確認し、事故防止に努めたい。</p>	<p>全学科共、専修学校各種学校学生・生徒災害傷害保険へ加入し、怪我・事故に応じて適用している。</p> <p>日本語学科においては、日本語学校学生災害補償制度へ加入し、怪我・事故・疾病に応じて適用している。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受け入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>HPを入口とした募集要項請求，広告業者を通じた進学ガイダンス・校内ガイダンス及び高校訪問によって，高等学校に留まらず社会人に向けて情報提供している。</p> <p>高等学校等の実情に合わせて、法令を遵守して広域に募集活動をしている。</p> <p>入学試験委員会規程を定めて選考基準等を明確にし、選考を行っている。</p> <p>学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得る。</p> <p>授業料は半期毎の納入方法を採用、入学意思を確認する時期に納入させている。</p>	<p>高等学校の教職員を対象に学校説明会を開催している。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等 接続する教育機関 に対する情報提供 に取り組んでいるか	本校の教育理念・教育活動への理解のため積極的に取り組んでいく方針としている。	進学ガイダンス・校内が「ダ」に積極的に参加し、本校の教育活動の情報を提供している。 高等学校の教職員を対象とした学校説明会を開催している。 また、教員・保護者等に向けたパンフレットを作成し学校情報の提供を積極的に行っている。	定員充足のために組織的に広報活動が出来る体制を検討している。	学校HP 学校案内パンフレット 学生募集要項
7-25-2 学生募集活動 を適切、かつ、効果的 に行っているか	法令を遵守し、幅広く職業教育の有効性と、本校の優秀な指導力を広報していくことが必要と考えている。	高等学校等の実情に合わせて、法令を遵守して広域に募集活動を実施している。	職業教育の意義、専門学校の実情、キャリア教育に則ったIGLの有効性を募集活動の中で訴える。	学生募集要項

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の進路実績、現在の教育力を自信を持って解説することになっている。	高等学校教員は、専門学校の実情、職業教育の意義を理解していないのが実情だと受け止めている。専門学校の実情、職業教育の役割を広報し、是非本校に学生を送って欲しい、是非高校生たちは進学して欲しいと理解を求めするために高等学校の教職員を対象に学校見学会を実施している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	選考基準を明確にして、選考を行うことが必要と考えている。	入試に関する案件を入試委員会で検討し、よりよい入試体制となるよう整備して実施している。	特になし。	学生募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考での学生実態等を把握して授業改善に活用することが必要と考えている。	入学内定後、入学前学習課題を受けさせる。 修業年限に見合う学習計画を立て、留年生を出さないようにしている。	学生個々の学習意欲等を早期に把握して実態にあわせた個別対応を行う必要がある。	入学前教育プログラム

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集、入学選考を通じて、職業に対する意識と学習意欲を高める必要がある。選考データを学科会が丁寧に生かし、卒業までの修学を円滑に進める。	入学選考データを活用して入学後の指導に反映させる。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	教育活動実態に合わせた学納金を算定することが重要であると考えている。	学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得ている。	特になし。	学生募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか	入学辞退者について募集要項に記載し、授業料等について適正な取扱いを行うことを方針としている。	入学前月末まで意思を示した辞退者に対して入学金を除いた授業料を返還している。	特になし。	学生募集要項 授業料納入規則

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育活動実態に合わせて、学納金を算定していく。学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得ている。	授業料は年間2回分割納入方法を採用し、延納・分納の徴収猶予の制度を設けて対応している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																					
<p>学校収入は学生から納入される入学金・授業料等によるもので、入学生が減少すれば収入減に直接つながるので安定的な学生確保に全力を尽くしている。</p> <p>教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定する必要がある。</p> <p>会計監査、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。</p> <p>財務情報、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、IGL 学園のHPに「財務に係わる情報」として掲載し公開している。</p>	<p>日本の大学等に入学を希望する外国人留学生に対し、日本語教育及び文化等の教育を行う 2 学科を設置している。</p> <table style="width: 100%; margin-top: 20px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">[学科名]</th> <th colspan="2" style="text-align: right;">[在籍者数]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉学科</td> <td style="text-align: right;">81</td> <td style="text-align: right;">(定員 160)</td> </tr> <tr> <td>鍼灸学科</td> <td style="text-align: right;">47</td> <td style="text-align: right;">(定員 90)</td> </tr> <tr> <td>柔整学科</td> <td style="text-align: right;">73</td> <td style="text-align: right;">(定員 90)</td> </tr> <tr> <td>口腔保健学科</td> <td style="text-align: right;">100</td> <td style="text-align: right;">(定員 150)</td> </tr> <tr> <td>日本語学科</td> <td style="text-align: right;">127</td> <td style="text-align: right;">(定員 150)</td> </tr> <tr> <td>国際教養コミュニケーション学科</td> <td style="text-align: right;">22</td> <td style="text-align: right;">(定員 40)</td> </tr> </tbody> </table>	[学科名]	[在籍者数]		介護福祉学科	81	(定員 160)	鍼灸学科	47	(定員 90)	柔整学科	73	(定員 90)	口腔保健学科	100	(定員 150)	日本語学科	127	(定員 150)	国際教養コミュニケーション学科	22	(定員 40)
[学科名]	[在籍者数]																					
介護福祉学科	81	(定員 160)																				
鍼灸学科	47	(定員 90)																				
柔整学科	73	(定員 90)																				
口腔保健学科	100	(定員 150)																				
日本語学科	127	(定員 150)																				
国際教養コミュニケーション学科	22	(定員 40)																				

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	立川 真成
--------	----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	財務基盤を安定させるためには、中長期的な入学者を確保することは不可欠と考えている。	赤字の主な原因は学生減少である。全教職員が経費節減に取り組むとともに学生募集活動に全力で取り組んでいる。	資金収支の視点を学校関係者全員で共有する必要がある。	学校 HP 財務関係書類
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	安定的に学校運営をするために財務分析は必要と考えている。	法人本部の財務状況報告に依るのであって、学校独自の財務分析を行っていない。	学校独自の財務分析を検討している。	財務関係書類

※点検進捗 4: 優れている 3: 適切である 2: やや不適切 1: 改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な財務運営を行うために法人と学校が連携して運営方針を検討する必要がある。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標との整合性を図る事業計画を策定し、その計画に基づき単年度予算だけでなく中期計画も策定すべきであると考えている。	学校と法人の連携が不十分なところで予算を策定している。	中期計画を策定して、予算編成を策定する必要がある。	事業計画
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	事業計画により予算を策定し、適正に執行すべきであると考えている。	予算編成及び予算執行全般について、さまざまな改善を図り無駄な支出を防ぎ、経費節減を図っている。	全教職員が引き続き無駄のない予算執行に取り組む必要がある。	経理規程

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標との整合性を図り、中期計画を策定することが必要。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	寄付行為等に基づき、監事による会計監査を適切に実施すべきと考えている。	会計監査については、法人の所管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。	特になし。	財務関係書類

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備して適切に運用することは重要であると考えている。	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、I G L学園のHPに「財務に係わる情報」として掲載し公開している。	ホームページ等を活用した公開方法については、今後も工夫を重ねていく必要がある。	学校 HP

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、I G L学園のHPに「財務に係わる情報」として掲載し公開している。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあってはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。</p> <p>セクシュアル・ハラスメント等ハラスメント防止のための規程を制定して、運用している。</p> <p>教職員に対しては、毎年度始めの教職員会議において、法令遵守に関する啓発を行っている。適切な学校運営を行うための細則や規程類を整備しており、周知及び適切な運用を推進していかなければならない。</p> <p>在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて、「学生便覧」を配布して、学修に関する諸手続、学生生活に係る法令を遵守するよう周知している。</p> <p>個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。</p> <p>本校では、平成 18 年 12 月に自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行ってきた。本年度から私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行う。</p> <p>平成 25 年 12 月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始した。</p>	<p>教育活動の更なる質の保証・向上のため、第三者評価の受審を前提とした取り組みを行う。</p>

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	立川 真成
--------	----------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をすることは重要であると考えている。	専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。	特になし。	学生便覧

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。</p> <p>セクシュアル・ハラスメント等ハラスメント防止のための規程を制定して、運用している。</p> <p>教職員に対しては、毎年度始めの教職員会議において、法令遵守に関する啓発を行っている。適切な学校運営を行うための細則や規程類を整備しており、周知及び適切な運用を推進していかなければならない。</p> <p>在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて、「学生便覧」を配布して、学修に関する諸手続、学生生活に係る法令を遵守するよう周知している。</p>	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図る必要があると考えている。	個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。	学校内の個人情報が厳格に保護されているか、常に点検する必要がある。	個人情報に関する規程

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。 また、「個人情報保護に対する基本方針」を、校舎内の適切な場所に掲示するとともに、在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて啓発の機会を設けて実施している。	学外実習が定められている学科については、事前オリエンテーションで個人情報に関する指導を適切に行っている。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	校長を中心に項目毎に担当責任者が自己評価を行い、次年度以降の指針にすることを方針としている。	自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行った。	教職員の自己点検・自己評価に対する理解にばらつきがあるため、勉強会等を実施する事を検討している。	学校 HP 自己評価
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己評価は広く社会に公表することが重要と考えている。	ホームページで公表している。	ホームページの公表方法について検討する必要がある。	学校 HP 自己評価
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	学外関係者による「学校関係者評価委員会」で評価を行って学校改善に取り組むことは重要と考えている。	評価結果による改善点に対して迅速に取り組んでいる。	特になし。	学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価結果を毎年まとめて公表すべきであると考えている。	ホームページで公表している。		学校 HP 学校評価

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価の実施により改めて足元を見直すことができるので、積極的に行っていく。また、平成 26 年度からは私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行い、平成 27 年度第 1 回、第 2 回学校関係者評価委員会報告書を公表した。評価結果による改善点に対する迅速な取り組みを行っていく。	今年度 1 月、私立専門学校等評価研究機構への入会手続きを行った。

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	立川 真成
--------	----------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学生・保護者・関連業界等に対して教育情報の提供は、重要であると考えている。	学校案内パンフレット・ホームページを中心にブログ・facebook・LINE等のSNSを積極的に活用し、教育情報の公開を行っている。	公開の際には学生・保護者の個人情報に配慮する必要がある。	学校 HP

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の規程に基づいた情報公開を行った。 学生や保護者の信頼を得るため、今後もわかりやすい情報公開を積極的に行っていく。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を学校施設内で行うなどの協力をしている。</p> <p>日本語学科等に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流を行っている。交流は日常的であり、特別にはバディ制度参加、ランチ交流会などを行っている。</p> <p>介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して救護活動を行っている。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	学校法人の性質上、社会や地域に貢献することが必然であると考えている。	<p>地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会、各種スポーツ大会等での救護ボランティアなどを学校施設内外で行うなどの活動をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭を毎年開催し、一般の方に開放することで地域との繋がり場を設けている。 ・「資格教養講座」として高等学校で資格内容の講義を行っている。 ・「出張講座」を行い、資格内容の講座を行っている。 	職業教育の専門学校であるので、より一層の地域参加をしていく。	<p>学園祭パンフレット</p> <p>出張講座パンフレット</p> <p>資格教養講座依頼書</p> <p>研修・ボランティア活動・地域ならびに社会貢献活動実績リスト</p>
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	留学生の受入は、国としての方針でもあり、留学生が卒業後に日本や本国における日本企業で就職するために職業教育機関である専門学校は役割を果たす必要があると考えている。	日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が校舎内で日常的交流するとともに、バディ制度、ランチ交流会を開催している。	日本人学生・留学生ともに勉学・アルバイト等で多用であり、ともに交流する機会は多くないのが実情で交流機会について検討している。	<p>外国人人数</p> <p>教育機関の選定結果</p> <p>バディ制度パンフレット</p> <p>ランチ交流会</p>

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を学校施設内で行うなどの協力をした。</p> <p>日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流の実をあげている。</p>	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	福祉・医療系専門学校の強みを發揮する場としても、ボランティア参加を奨励・支援することが重要と考えている。	介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して救護ボランティア等を行っている。	より一層のボランティア参加の機会を増やしていくために学校として積極的に奨励することを検討している。	研修・ボランティア活動・地域ならびに社会貢献活動実績リスト

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して処置の補助を行っている。	特になし。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	立川 真成
--------	-----------	-------	-------